

令和8年度 全国学力・学習状況調査
(令和8年4月23日 実施)

高石市立小・中学校
調査結果概要

令和8年10月
高石市教育委員会

調査の概要

(1) 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査内容

- I…教科に関する調査 小学校：国語・算数 中学校：国語・数学・英語
- II…アンケート調査 児童生徒対象・学校対象

(3) 調査対象

- 小学校第6学年（高石市：7校 児童数：438人）
- 中学校第3学年（高石市：3校 生徒数：354人）

(4) 調査実施日

令和8年4月23日（木）

(5) 調査結果の取扱いについて

- 本調査は、競争を目的とするものではなく、すべての子どもたちの学力や学習状況を把握し分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としている。
- 本調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものである。

平均正答率からわかる本市小・中学校別結果の概要について

小学校	平均正答率（％）		
	高石市 （公立）	大阪府 （公立）	全国 （公立）
国語	63	59	60.9
算数	57	56	56.4

中学校	平均正答率（％）		
	高石市 （公立）	大阪府 （公立）	全国 （公立）
国語	59	61	63.9
数学	55	55	57.0
英語	51.7	52.3	52.9

上表の本市平均正答率の数値データは、市内の全小学校・全中学校のデータに基づいて表しています。

※平成29年度より、国からの結果公表（国語・算数/数学）が整数値のため、本市及び大阪府の平均正答率は整数で表しています。

- ◇ 小学校では、国語は大阪府平均、全国平均ともに上回っています。
算数は大阪府平均を上回っており、全国平均と同等です。
- ◇ 中学校では、国語は大阪府平均、全国平均ともに下回っています。
数学、英語は大阪府平均と同等、全国平均を下回っています。

学力調査結果 小学校

平均正答率(%)

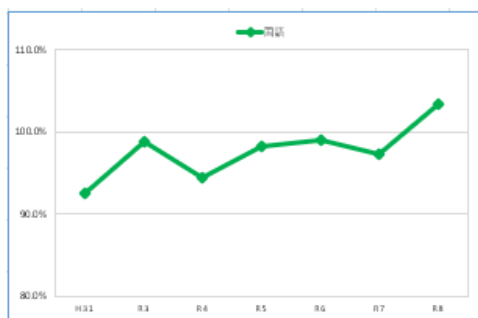
	高石市	大阪府	全国	対府差	対国差
国語	63	59	60.9	4.0	2.1
算数	57	56	56.4	1.0	0.6

無解答率(%)

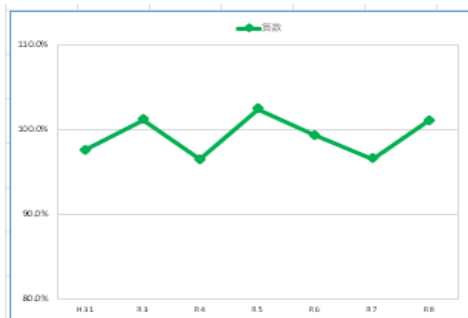
	高石市	大阪府	全国	対府差	対国差
国語	2.8	3.3	3.4	-0.5	-0.6
算数	3.2	3.1	3.2	0.1	0

【参考】対全国比の経年比較

【国語】



【算数】



※全国平均正答率を100としたときの各教科の平均正答率の推移

各教科の状況

○小学校国語

平均正答率は63%で、全国平均を2.1ポイント上回った。特に「言葉の特徴や使い方」の領域については、全国平均を5.3ポイント上回っており、成果が見られる。また、「書くこと」「読むこと」の領域については全国平均を下回った。引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることが十分にできていない児童が多い。(課題となる問題例をP.13に掲載しております)

小学校国語	領域	市	府	国	府比	国比
	言葉の特徴や使い方	72.1	64.4	66.8	112.0	107.9
	情報の扱い方	53.6	51.4	52.3	104.3	102.5
	話すこと・聞くこと	67.4	63.9	65.8	105.5	102.4
	書くこと	44.9	43.8	45.7	102.5	98.2
	読むこと	65.7	65.3	65.9	100.6	99.7

○小学校算数

平均正答率は57%で、全国平均を0.6ポイント上回った。特に「データの活用」の領域については、全国平均を2.8ポイント上回っており、成果が見られる。また、「変化と関係」の領域については全国平均を上回っているものの、正答率が41.6%と課題が見られる。問題場面の数量の関係に着目し、二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察することが十分にできていない児童が多い。(課題となる問題例をP.14に掲載しております)

小学校算数	領域	市	府	国	府比	国比
	数と計算	62.3	61.1	61.1	102.0	102.0
	図形	56.4	54.2	55.3	104.1	102.0
	測定	76.6	77.6	78.1	98.7	98.1
	変化と関係	41.6	40.6	41.1	102.5	101.2
	データの活用	51.4	48.0	48.6	107.1	105.8

学力調査結果 中学校

(※前回の英語の調査は令和5年度)

平均正答率(%)

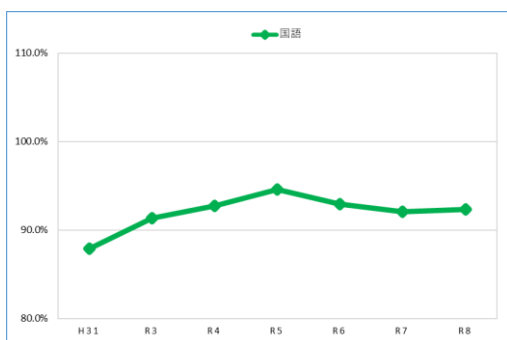
	高石市	大阪府	全国	対府差	対国差
国語	59	61	63.9	-2.0	-4.9
数学	55	55	57.0	0.0	-2.0
英語	51.7	52.3	52.9	-0.6	-1.2

無解答率(%)

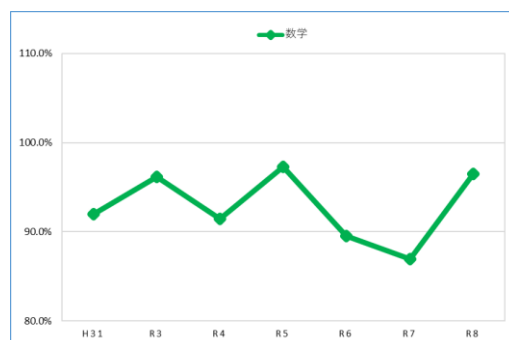
	高石市	大阪府	全国	対府差	対国差
国語	6.4	5.8	4.9	0.6	1.5
数学	13.3	12.3	10.4	1.0	2.9
英語	4.4	4.3	3.4	0.1	1.0

【参考】対全国比の経年比較

【国語】



【数学】



※全国平均正答率を100としたときの各教科の平均正答率の推移

各教科の状況

○中学校国語

平均正答率は59%で、全国平均を4.9ポイント下回った。その中でも、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域について課題が見られる。互いの立場や考えを尊重し、結論に向けて考えをまとめることや文章を読み、理解したことを基に、自分の考えを深めることが十分にできていない生徒が多い。
(課題となる問題例をP.15に掲載しております)

○中学校数学

平均正答率は55%で、全国平均を2.0ポイント下回った。その中でも、「関数」「データの活用」の領域について課題が見られる。数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することや、累積度数の意味を理解することが十分にできていない生徒が多い。
(課題となる問題例をP.16に掲載しております)

○中学校英語

平均正答率は51.7%で、全国平均を1.2ポイント下回った。その中でも、「聞くこと」「書くこと」の領域について課題が見られる。日常的な話題について、概要を捉えることや事実を考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことが十分にできていない生徒が多い。
(課題となる問題例をP.17に掲載しております)

中学校国語	領域	市	府	国	府比	国比
中学校国語	言葉の特徴や使い方	59.7	60.4	63.0	98.8	94.8
	情報の扱い方	66.3	66.8	70.4	99.3	94.2
	話すこと・聞くこと	56.8	60.2	63.9	94.4	88.9
	書くこと	62.6	64.5	67.4	97.1	92.9
	読むこと	53.3	56.8	59.7	93.8	89.3

中学校数学	領域	市	府	国	府比	国比
中学校数学	数と式	65.3	65.6	67.8	99.5	96.3
	図形	49.4	48.0	48.7	102.9	101.4
	関数	52.2	52.8	54.8	98.9	95.3
	データの活用	49.7	49.7	53.5	100.0	92.9

中学校英語	領域	市	府	国	府比	国比
中学校英語	聞くこと	59.6	61.9	66.0	96.3	90.3
	読むこと	56.3	57.2	58.2	98.4	96.7
	書くこと	40.1	42.5	43.1	94.4	93.0

質問紙調査の結果概要

単位は %

	質問項目		高石市				全国			
			R5	R6	R7	R8	R5	R6	R7	R8
①	朝食を毎日食べていますか	小	91.1	90.1	90.6	91.3	93.9	93.7	93.7	93.3
		中	88.0	92.8	88.6	90.0	91.2	91.2	91.2	90.9
②	自分にはよいところがあると思いますか	小	82.9	85.6	83.0	83.3	83.5	84.1	86.9	85.6
		中	74.2	74.0	80.0	73.2	80.0	83.3	86.2	84.0
③	将来の夢や目標をもっていますか	小	79.2	83.4	82.0	81.4	81.5	82.4	83.1	81.8
		中	65.0	63.2	67.6	64.1	66.3	66.3	67.6	67.6
④	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	小	97.8	96.0	96.6	97.3	96.9	96.7	97.2	96.2
		中	92.8	95.6	92.4	93.5	95.5	95.7	95.9	95.1
⑤	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	小	92.7	95.1	95.3	95.0	95.9	95.9	96.4	95.8
		中	92.0	93.9	94.6	92.6	94.6	95.2	96.6	95.9
⑥	学校に行くのは楽しいと思いますか	小	87.3	86.0	88.8	90.6	85.3	84.8	85.4	85.7
		中	78.8	82.2	85.4	83.5	81.8	83.8	86.1	85.4
⑦	家庭学習の時間が30分より少ない（月～金）	小	23.9	26.1	39.0	26.1	16.0	18.3	18.6	20.2
		中	22.1	28.1	23.3	26.5	15.9	17.0	19.0	18.4
⑧	学校の授業以外の読書時間が30分より少ない（月～金）	小	65.6	*	72.4	60.8	62.6	*	68.7	61.4
		中	73.8	*	78.4	67.6	71.0	*	75.6	69.2
⑨	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	小	66.1	71.6	71.9	73.0	63.7	67.6	68.6	66.4
		中	66.6	71.9	69.3	66.4	62.1	64.8	63.0	65.5
⑩	これまでの授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	小	79.3	85.2	80.1	81.7	78.8	81.9	80.3	77.6
		中	78.6	80.7	77.5	76.7	79.2	80.3	77.7	78.8
⑪	話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	小	80.0	83.5	83.4	87.4	81.8	86.3	84.9	85.7
		中	75.5	81.4	77.5	83.2	79.7	86.1	84.7	87.0
⑫	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	小	81.5	83.1	83.3	79.8	77.4	80.8	79.4	78.4
		中	70.3	78.1	74.7	80.0	69.2	77.9	73.4	79.0
⑬	あなたの学級では学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	小	76.3	83.8	82.9	86.0	77.2	84.2	83.3	81.5
		中	65.6	80.1	79.8	76.7	77.9	86.3	84.3	84.5
⑭	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小	95.2	94.5	90.2	92.4	92.8	93.2	90.4	90.4
		中	89.4	88.4	81.6	82.4	88.7	90.6	88.3	88.2
⑮	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小	93.7	92.4	90.8	91.5	93.3	94.1	91.6	91.0
		中	73.8	77.5	69.0	75.5	75.8	78.5	75.2	76.5
⑯	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	中	89.6	*	*	87.7	87.5	*	*	87.6

※ 表における「*」は、その年度、調査がなかったことを示します。

傾向について

①の項目では、小中学校とも全国を下回りましたが、小中学校ともに前回より数値が上がりました。今後も継続して、朝食の大切さを伝えるため食育「三つの朝運動」等の取組みを進めてまいります。

②③⑤の項目では、小中学校とも全国を下回りました。今後さまざまな教育活動を通して、人との関わりを大切にし、自己肯定感・自己有用感を高める取組みやキャリア教育を進めてまいります。

④の項目では、小学校は全国を上回り、小中学校ともに前回より数値が上がりました。道徳教育や児童会・生徒会活動等の取組みの成果が見られます。引き続きいじめは絶対にゆるされないという教育を進めてまいります。

⑥の項目では、小学校は全国を上回りましたが、中学校は前回よりも数値が下がりました。仲間づくりや授業改善を図り、児童生徒が楽しいと感じ、安心して過ごすことのできる環境づくりを進めてまいります。

⑦の項目では、小学校は前回より数値が下がり改善が見られました。一人一台端末等を活用しながら、これからも家庭学習の定着につなげてまいります。

⑧の項目では、小中学校とも全国を下回り、学校図書館を活用した取組みを継続させてきた成果が見られました。引き続き学校が家庭と協力して、読書活動の推進に取り組んでまいります。

⑨⑫の項目では、小中学校とも全国を上回りました。今後も引き続き、主体的・対話的で深い学びの実現につながる授業づくりを進めてまいります。

⑩⑪の項目では、中学校では全国を下回っていますが、小学校は全国を上回っています。⑬の項目では、小学校は全国を上回っていますが、中学校は全国を下回り、前回より数値が下がりました。課題解決に向けて主体的に自分の考えを他者にうまく伝えることができるよう授業改善を進めてまいります。

⑭の項目では、小学校は全国を上回り、小中学校とも前回より数値が上がりました。⑮の項目では、小学校は全国を上回り、小中学校ともに前回より数値が上がりました。⑯の項目では、全国をやや上回りました。引き続き、授業の内容が、より生徒の実生活に結びつくものとなるよう授業改善に取り組んでまいります。

調査結果から

本年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析・考察した結果、国語科において、「言葉の特徴や使い方」の領域については、成果が見られました。しかし、「目的や場面に応じて情報を整理し、表現を工夫すること」や「文章を読んで内容を理解し、自分の考えをまとめること」に課題が見られました。

算数・数学科において、「図形」や「データの活用」の領域については、成果が見られました。しかし、「問題場面の数量の關係に着目し、二つの量の割合として捉えられる数量の關係について考察し、問題解決の方法を数学的に説明すること」に課題が見られました。

英語科において、「自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を読み取ること」や「短い文章を読み、概要や要点を捉えて考えや理由を書くこと」について、成果が見られました。しかし、「日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えること」や「日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ること」に課題が見られました。

今回の結果をふまえて、本市の課題に応じて特に重点をおく学習活動として、

「基礎的な知識・技能の確実な定着」

「情報を整理・分析し、場面に応じた適切な判断を行い、効果的に活用すること」

「根拠に基づいて判断し、言語・数値を適切に用いて自分の考えをまとめ、相手に伝わるよう記述すること」

の3つが挙げられます。そこで、定着に課題が見られる指導事項の明確化や個に応じた指導を適切に行うための学習形態等の工夫等を行うことが重要です。児童生徒の学びが深まるような授業改善とともに、TAKAISHI スタイル2に沿った一人一台タブレット端末等の効果的な活用や大阪府情報活用能力ステップシート等を使った計画的な取組みを進めてまいります。

質問紙調査において、「学校の授業以外の読書時間が30分より少ない（月～金）」については、小中学校ともに大幅な改善が見られました。学校の実態に応じた効果的な読書活動に取り組んできた成果と考えられます。引き続き、読書習慣が定着するよう、学校図書館を充実・活用し、学校と家庭が協力した読書活動の推進を図ってまいります。

「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」については、小中学校とも大幅な改善が見られ、小学校は全国を上回りました。引き続き、得られた情報や根拠に基づき判断した内容について、言語・数値などを効果的に用いて他者に分かりやすく伝える力を育成する場面づくりを充実してまいります。

「朝食を毎日食べている」については、小中学校ともに昨年度の数値より改善しています。今後も高石市で啓発している三つの朝運動を通して朝食の大切さを伝え、食育等の取組みを進めてまいります。

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」については、小中学校ともに昨年度より数値が上がり、特に小学校では肯定的回答が全国を上回っていました。道徳教育や児童会・生徒会活動等、様々な教育活動を通して「いじめは絶対に許されない」という意識が向上するような取組みを進めてきた成果と考えられます。引き続き、児童生徒が安心・安全に過ごすことのできる学校づくりを進めていくとともに、児童生徒の悩みや不安の早期発見・支援を推進してまいります。

「家庭学習の時間が30分以下（月～金）」では、小学校で昨年度より大幅な数値の改善が見られましたが、依然として全国平均より多い状況が続いており、課題が見られました。デジタル学習コンテンツの活用や達成感につながる学習課題等、子どもたちが主体的に家庭学習に取り組むことのできる工夫を図ってまいります。引き続き、ご家庭の協力をお願いいたします。

「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」や「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」については、小中学校ともに全国を上回りました。各校で課題解決に向けて主体的に学ぶ力をはぐくむとともに、言語能力や情報活用能力をはぐくむ授業づくりやよむYOMUワークシートをはじめ、様々なツールを活用した学習活動の研究などの取組みを推進してきた成果と考えられます。引き続き、児童生徒が自ら学びを深められるような取組みを推進してまいります。

「学校へ行くのは楽しい」については、小学校で改善が見られ、肯定的回答が全国を上回っている一方で、中学校では課題が見られました。引き続き、学校全体で児童生徒が主体的な学びを深めることのできる授業改善に取り組むとともに、児童生徒が安心・安全に過ごすことのできる居場所づくりの充実を図ってまいります。

「将来の夢や目標をもっていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」については、小中学校ともに昨年度より数値が下がり、全国を下回っています。また、「自分にはよいところがあると思いますか」については、中学校で数値が下がり、小中学校ともに全国を下回っています。様々な教育活動を通して、自己肯定感・自己有用感を高めるとともに、人との関わりを大切にしたいキャリア教育を進めてまいります。

また、情報モラル教育に関わる取組みも充実してまいります。P.12に掲載の「ケータイ・スマホの使い方について」等を参考に、スマートフォン使用に関するルール作りについて、ご家庭でも話し合ってください。

【P.6より高石市教育委員会・各学校の取組みと、家庭・地域の皆様にご協力いただきたい点をまとめて記載しております。】

教育委員会による学校への指導助言事項

各校に対して、下記の内容について重点的に指導助言を行います。

① 児童生徒の課題解決に向けた具体的な学習活動の推進

- ・ 学校全体で分析を行い、児童生徒の課題解決のために『課題の明確化と授業改善(基礎基本の定着、言語能力の向上)』『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』『学級づくり・学習規律の確立』『家庭学習の充実』の4つの観点から取組み内容を具体化し、教職員一人ひとりが推進に取り組むこと。
- ・ 各校においては、学力向上の取組みを一層推進するため、既習事項や児童生徒の生活経験と基礎的・基本的な知識及び技能の意味や特徴を関連づけて、正しく理解できる指導の工夫に努めること。
- ・ 得られた情報をもとに整理分析した内容を根拠に、言語や数値などを適切に用いて他者に分かりやすく伝える力を育成する学習活動を充実させること。
- ・ 上記の取組みを、年間を通じて PDCA サイクルを機能させながら継続的に実施することにより、児童生徒の確かな学力の定着と、主体的に学びに向かう力の育成を図るとともに、各教科等で効果的に一人一台端末や学校図書館を活用し、言語能力・情報活用能力の育成と読書活動の推進を図ること。

② 円滑な小中接続をめざした校内研究体制の充実、学び合える教職員文化の醸成

- ・ 中学校区でめざす子ども像を共有し、その実現に向けた教育活動や校内研究体制の充実に取り組むこと。
- ・ 既習事項や生活経験とのつながり、小学校から中学校への教育活動のつながり等、学習活動の円滑な接続を意識した単元構想や授業計画に基づいた取組みを進めること。
- ・ 大学教授等の外部講師を招聘し、最新の教育的知見や実践をもとに教職員の資質向上に努めること。
- ・ 指導案作成の際、校内研究主題と正対しているか、子どもの課題とめざす子ども像をふまえた指導案となっているか等を共同で協議・作成する校内体制を構築すること。
- ・ 他市町村の先進的な実践等の視察、キャリアステージに応じた研修の参加等、教職員が探究心を持ちつつ主体的に学ぶ校内文化を醸成すること。
- ・ 各校の好事例をホームページや研修等で発信し、市域全体に広めていくこと。

③ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の推進

- ・ 教職員が個々の児童生徒の課題を把握し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をめざして授業改善を図ること。
- ・ TAKAISHI スタイル2に沿って、児童生徒の課題に応じて、一人一台端末等を効果的に用いた学習を進めること。
- ・ 課題解決にむけた学びを主体的に深められるよう、個別・ペア・グループ・学級全体の活動等、様々な学習形態を効果的に授業の中に取り入れること。
- ・ 小学校において教科担任制を実施し、専門性を活かした指導を推進すること。
- ・ 放課後に補充的学習機会として実施している「高石っ子学び舎」及び「高石っ子学び舎キッズ」について、一人ひとりの学習状況に応じて、保護者の理解と指導者との連携のもと、子どもたちへの個別の学習支援対策として実施すること。

④ 心の教育の推進

- ・ 教職員が人権尊重の理念について深く理解した上で、組織的な研修体制を整備し、人権教育を推進できるよう実践力を身につけること。
- ・ いじめの積極的な認知を行い、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家との連携を図り、組織的な対応を行うとともに適切な支援を行うこと。
- ・ 不登校への取組みについて、各種アンケートの結果分析や専門家を交えたケース会議の実施等により、児童生徒理解を深めること。
- ・ 不登校につながる要因の早期把握に努めるとともに、つれづれ教室や校内教育支援ルームを効果的に活用する等、支援体制の充実を図り、児童生徒の社会的自立に向けた継続的な支援を推進すること。

⑤ 家庭・地域との一層の協力関係の構築

- ・ 自校の学力実態や、生活実態を PTA 実行委員会や学校評議員会等、家庭や地域に対して具体的に知らせ、改善策について意見を聞きながら、今後の方針を明確にすること。
- ・ 「開かれた学校」のもと、家庭や地域と適切に連携しながら、次代の地域を担う子どもたちを育てていく素地を形成すること。

学校での取組み

☆ 今年度の調査から見える課題を踏まえ、各校が重点的に取り組むことを下記に記載しています。

高石小学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、自分の考えを表現したり、根拠に基づいて理由を述べたりすることに改善の余地がある。そのため、自分の考えをまとめ、他の人の考えを聞き、より良いものを見つけ、相手にわかりやすく伝える表現ができるようになるため、授業中に根拠に基づいた自分の考えをもち、友だちと意見を交流する活動の充実を通じて、児童全員が主体的に考えを交流する学習に取り組むことについて、推進を図る。

羽衣小学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、「自分の考えを伝えるように書くこと」や「文章や資料・グラフを読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめて書くこと」という点に課題が見られた。そのため、授業の中で、文章や資料グラフを照らし合わせながら読み取り、伝えたいこと・まとめたいことを『根拠』に基づいて書く力を育成することについて、取組みの推進を図る。

高陽小学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、算数科に関して、図形や分数などの基礎的な概念理解に加え、数量関係に着目して日常生活の問題を解決する機会を持ったことにより、数や言葉を用いて根拠を説明する力に成果が見られた。そのため、これからも、日々の授業の中で、豊かな言語活動を通して自分の考えを形成・表現する力を高める取組みを継続するとともに、さらに解き明かしたい疑問を積極的に見つけたり、友だちの読みに触れて自分の考えが広がる楽しさを実感したりしながら日常生活につながる必然性のある学びについても、取組みの推進を図る。

取石小学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、「書くこと」や「知識・技能」・「思考・判断・表現」等の学力指標、また、質問紙調査における回答状況についても全体的に改善傾向である。しかし、子どもたちが「考える」力と習慣を身に付けることについて改善の余地があるため、シンキングツールを活用して思考することを中心とした授業づくりについて継続して取組み、授業改善を推進する。

東羽衣小学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、自分の考えが伝えるように表現を工夫し、目的や意図に応じて資料を活用するという点に改善が見られた。そのため、ICT 機器や思考ツールを活用し、収集した情報を整理し自分の考えをまとめ、グループ活動を取り入れ表現する取組みを継続するとともに、さらに情報活用能力の育成をはぐくみ「つながる・深まる・探究する」教科等横断的な学びについても、取組みの推進を図る。

清高小学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、基礎・基本の定着が不十分であり、相手に伝えたい気持ちはあるものの、自分の考えを文章としてまとめたり、伝わるように工夫して記述したりするという点に課題が見られた。そのため、基礎・基本の定着とともに、話す・聞く力を育む「対話タイム」を継続し、自分の考えをもち、表現する活動を充実させる。あわせて、学習課題を自分事としてとらえられるよう、現在研究を進めている「単元を通した言語活動」を取り入れた授業づくりについて、取組みの推進を図る。

加茂小学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、国語・算数ともに基礎的な知識・技能については概ね定着が見られる一方、文章や資料、表やグラフなど複数の情報を比較・関連付けながら必要な情報を取り出し、目的に応じて考えることや、根拠を明確にして自分の考えを言葉や式を用いて説明・記述するという点に課題が見られた。そのため、各教科において自分の考えを整理する際、思考ツール等を活用し、情報を整理・比較・分析する力、考えの根拠を明確にし、相手に分かりやすく表現する力の育成をめざした授業改善の取組みの推進を図る。

高石中学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、問題文や式の意味を読み取り、根拠を明確にして考えをまとめること、表現を工夫してわかりやすく説明すること、考えのもととなる基本的な知識の理解という点に課題が見られた。そのため、ICT 機器を効果的に活用した取組みを継続して行いながら、思考ツール等を用いて他者の考えと比較し自分の考えを整理する情報活用能力の育成に向けた取組みを進めるとともに、基礎・基本的な力の定着に向け、朝学習の見直しやデジタルドリルを活用した反復学習を行い、生徒の「考動力」「対話力」「発信力」の向上をめざす取組みの推進を図る。

高南中学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、「互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること」に課題が見られ、自分の考えを明らかにし、文章で表現する学習活動の充実を図る必要がある。そのため、読書量と読解力の向上をめざし、全教科において、グループワークやペアワークといった言語活動を取り入れるとともに、学校図書館の活用や朝読書の充実、新聞記事を基に作成された教材を活用した取組みを推進する。

取石中学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、問題別で見ると、選択式の問題や基本的な知識・技能を問う問題において、府平均を上回る結果が得られ、成果が見られた。一方、「なぜそうなるか」など、理由を説明する記述問題や情報を整理して自分の答えをまとめるという点に課題が見られた。そのため、自分の考えをまとめる際、ペアワークやグループで話し合う機会を設定し、他者の視点を取り入れる等、多様な意見に触れることで、自分の意見を再確認する取組みの推進を図る。

家庭・地域にご協力いただきたいこと

- ◆ 朝食をとることは、効果的に学習に取り組むためにとても重要です。毎日朝食をとって、朝からしっかり学習活動に取り組めるよう、また、健康的な生活が送れるよう引き続きご協力をお願いします。
- ◆ 各学校における「家庭学習のてびき」等を参考にいただき、子どもたちの宿題の確認や学校の予習・復習、デジタルドリルの活用等、自主的な家庭学習に対する意欲向上へのご協力をお願いします。
- ◆ ご家庭における読書の機会設定や子どもたちへの啓発についてご協力をお願いします。
- ◆ スマートフォン・タブレットやゲーム機等の使用について、家庭におけるルール作りと、SNSやインターネットの危険性について、子どもたちと話し合ってください、適切な使用とともに十分な睡眠時間が確保できますようお願いします。
- ◆ 「他人を認め、自分を大切にすること（自己肯定感）」の大切さをご家庭でもお話していただきますようお願いします。
- ◆ 学校のさまざまな学力向上等の取組み(授業支援や図書、放課後学習活動等のボランティア等)についてご協力をお願いします。
- ◆ 学校の「ホームページ」や「グーグルクラスルーム」等をご覧ください、行事や取組みへのご理解とご協力をお願いします。
- ◆ 各中学校区の「すこやかネット」の活動へのご参加とご協力をお願いします。

◆高石市三つの朝運動（あいさつ・朝食・朝読書） （高石市教育委員会から配付）

あいさつ・朝食・朝読書の大切さについてまとめたリーフレットです。特に、朝食をとることで体・心・脳によい影響があります。朝ごはんを食べて、朝からしっかり活動できるようにしましょう。

高石市三つの朝運動 （あいさつ・朝食・朝読書）

高石市では平成21年度から、大阪府が取組んでいる三つの朝運動を受け、「高石市三つの朝運動」を推し進めています。
あらためて、三つの朝の活動の重要性について、子どもたちの課題とともにお伝えします。

「朝食」について

「朝食を抜いたりしていませんか？朝食には、いかに大切！です！」



脳のパワーが全開になるのは、食事をした！～2時間後から！

☆朝食を抜いて一日の最初の食事が昼食となった場合、学校が終わるころに、ようやく脳のはたらきが活発になります。
朝食を食べないと、せっかくの学習や活動がムダになります！
朝ごはんを食べて、朝からしっかり活動できるようにしましょう！

◆高石っ子の学びを育む家庭での過ごし方について （高石市教育委員会から配付）

小学校1年生から中学校3年生までの家庭学習を行う際にヒントとなるポイント等についてまとめたリーフレットです。

高石っ子の学びを育む 家庭での過ごし方について

保護者のみなさまへ

高石市教育委員会は、『たけなわ！教育ビジョン（高石市教育振興基本計画）』を策定し、『知（豊かな心）』『徳（豊かな心）』『体（健康な心身）』のバランスのとれた人間性を育むことを目指しています。
この「家庭での過ごし方について」をぜひご家庭で実践いただき、子どもたちの家庭学習や家庭生活について、子どもといっしょに、より一歩進んでいただきたいと思います。
また、ご家族が子どもの「がんばり」を認めて、励めることも大切です。

☆親子の元気

「すすんで学習しよう」
～みんなで協力して家庭学習の場所をしよう～

- ・学習する場所の整理整頓をしましょう。
整理することは、気持ちいい生活を送ることができることに、心の中も整理され、集中力も高まります。
- ・家で本を読みましょう。
家で読書をしたり、読み聞かせをしたりしましょう。読書は、知識や教養を高めるだけでなく、表現力も高めます。
- ・家庭学習を習慣化しましょう。
時間を決めて、計画的に学習し、習慣は必ず継続してやりましょう。
- ・1人1台タブレット端末を有効に活用しよう。
学校から持ち帰ったタブレットについては「タブレット活用のルール」を守り、有効に活用しましょう。

◆情報活用能力ステップシート

（大阪府教育庁小中学校課発行）

高石市では、このシートに合わせて児童生徒の情報活用能力を育てる取組を行っています。



本リーフレット「大阪府情報活用能力ステップシート」は大阪府ホームページからも見ることができます。

<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/jyohokatsuyou/nouryok/index.html>



◆デジタルドリル

一人一台貸与されたタブレット端末には、個別学習に最適なツール「ラインズeライブラリ」が入っています。積極的に活用してください。



テスト対策

◆家庭でのタブレット端末の使い方について

ご家庭で一人一台タブレット端末を活用する際は、学校から配付されている「タブレット活用のルール」を読んでいただき、安心・安全・快適に活用してください。

高石市立小・中学校 『タブレットChromebook(クロームブック)活用のルール』

児童生徒のみなさんへ

学習内容をよく理解し、より豊かな学びにいくために、タブレットを上手に活用していくことが大切です。タブレットはみなさんの学習に役立てるための道具です。便利な道具ですが、使い方を間違えれば、破損したりトラブルの原因になります。そのため、高石市教育委員会は「タブレット活用のルール」を定めました。全員でこのルールを守り、タブレットを「安心・安全・快適」に活用していきましょう。※おうちのひとといっしょにルールの確認をしましょう。

1. タブレットを使う目的

- 学校で貸し出すタブレットは、学習活動のために使うことが目的です。
- ゲームなど、学習活動に関すること以外には使いません。

2. 使用する際の注意

① 共通の注意

- 学校、家庭、先生の指示がある場所以外では使用しません。
- 登下校中は、タブレットをかばんから出しません。
- 持ったまま走ったり、地面に置いたりしません。
- かばんの下に置いたり、かばんの底に入れたりしません。
- タブレットが入ったかばんを放り投げたりしません。
- 水をかけたり、湿気の多いところで使ったりしません。また、日光が直接当たるところやストーブ等暖房器具の近くなどには置きません。
- タブレットの画面を操作するときは手、タッチペン、鉛筆を使います。シャープペンシルやボールペンで触れたり、マーカーペンで落書きをしたりしません。磁石を近づけるなどは絶対にしません。
- なくしたり、ぬすまれたり、落としてこわしたりしないように十分に気をつけます。
- タブレットを使用するときは、正しい姿勢で、画面に近づきすぎないように気をつけます。
- 30分に一度は遠くの景色を見るなど、ときどき休憩する時間を取ります。

② 学校で使うときの注意

- 学校でタブレットを使うときは、先生の指示をよく聞きます。
- 休み時間や放課後は、先生が認めた時だけ使います。また、先生が認めたこと以外には使いません。

③ 家庭で使うときの注意

- 使用する時間は家の人とよく話し合い、長時間使用せず細かく休めいしながら使います。
- 寝る前の30分前には使いません。
- 自宅に持ち帰った後に学校へ持ってくるときは、自宅に十分に充電しておきます。
- 自宅のパソコンとタブレットは、絶対に接続しません。



3. 安全な使い方

- 学習に関係ないウェブサイトにはアクセスしません。インターネット接続記録が残りますので、注意してください。この記録は、学校や教育委員会から確認することができます。
- インターネットには制限がかけられていますが、もしもあやしいサイトに入ってしまったときはすぐに画面を閉じ、先生や家の人に知らせます。

4. カメラでの撮影

- 先生が許可した時以外はカメラを使いません。
- 先生の許可があっても、カメラで誰かを撮影したり、人の家や持ち物などを撮影したりするときは勝手に撮影せず、必ず撮影する相手の許可をもらいます。

5. データの保存

- 学校のタブレットで作ったデータやインターネットから取り込んだデータ(写真や動画などは)、学習活動で先生が許可したもののだけ保存します。保存した内容は、学校や教育委員会から確認することができます。

6. 設定の変更

- 先生や修理する人が使いにくくなるので、タブレットのデスクトップのアイコンの並び方や位置など、タブレットの設定は、勝手に変えません。
- タブレットには、今入っているもの以外のアプリケーションを入れません。また、今入っているアプリケーションを勝手に削除しません。

7. 保管

- 学校での保管は、先生の指示に従います。
- 家庭で保管するときは、家の人が確認できる場所に置いておきます。

8. 個人情報等

- 自分のタブレットを他人に貸したり、使わせたりしません。
- 自分のIDやパスワードを他人に教えないでください。
- 他人のIDやパスワードを勝手に使わないでください。
- 自分や他人の個人情報(名前や住所、電話番号など)はインターネット上に絶対に上げません。
- 相手を傷つけたり、いやな思いをさせたりすることを絶対に書き込みません。



保護者の方へのお願い事項

※この「高石市立小・中学校『タブレット活用のルール』」をお子さまといっしょに読んでいただき、安心・安全・快適に使用できるように、ご協力をお願いいたします。

- 学校から配付されるタブレットは貸与ですので大切に扱っていただようお願いいたします。
- 転送時、卒業時はタブレットを学校に返却してください。
- 故障、破損、紛失してしまったら、すみやかに学校へ連絡してください。破損・紛失した場合、弁償していただくことがあります。
- 故意に、設定変更をするなどしてタブレットに不具合が生じた場合は、もとに戻すための作業にかかる費用を家庭で負担していただくことがあります。

R7.10月改定

◆ケータイ・スマホの使い方について

(高石市教育委員会から配付)

ケータイ・スマホ使用の家庭でのルールづくり・学校への持ち込み禁止等、使い方についてまとめたリーフレットです。

保護者の皆様

高石市教育委員会

「高石市立小中学校内での「スマホ等」の取り扱いについて」

★学校への児童・生徒の「スマホ等」の持ち込みは原則禁止です。



家庭と同様に、ルールを決めずに学校に「スマホ等」を持ち込むことは、様々なトラブルにつながります。学校への「スマホ等」の持ち込みについては、**学校、保護者、児童生徒が一体となって、相互が理解しあえる一定のルールづくりが必要と考えます。**そのため、今後、関係する方々のご意見や国の情勢等をふまえ、検討を重ねて慎重に対応する必要がありますので、高石市教育委員会では、引き続き「スマホ等」の学校への持ち込みを原則禁止といたします。

保護者の皆様のご理解とご協力が必要です。

ご家庭におかれましても、子どもが「スマホ等」を使用する際には、家庭内で必ずルールを作るなど、持たせる責任者としての責務を果たしましょう。

「やめよう！」と子どもたちに伝えてください。

●スマホ等でのネット上の誹謗中傷は、犯罪につながります。

- 人の悪口をSNS等に書き込む行為
- 「なりすましメール(人の名前をかたったメール)」を送る行為
- 他人の個人情報や画像をネット上で公開する行為

☆ネット上の書き込みは、「だれが書いたのか」の記録が残ります！

●サイトには危険がいっぱいです。

- 出会い系・架空請求サイトなどへのアクセス
- 知らない人からのメッセージへの返信
- 個人情報の安易な書き込み



●携帯ゲーム機にも危険が！

- 知らない人と通信できる。(無線でのデータのやり取りなど)
- 匿名(ニックネーム)で通信するので、相手がわからない。

☆つまり・・・スマホ等と同じ危険がある！

学校への「スマホ等」の持ち込みは原則禁止です



「スマホ等」の使用状況について

タブレット端末や携帯電話・スマートフォン等の情報機器(以下「スマホ等」と表記)は、上手に使うと私たちの日常生活や仕事に役立つ、便利な道具です。

しかし、「スマホ等」を子どもたちが持つことで、子どもたちの世界が大きく変わり、様々なトラブルに巻き込まれるケースが発生しています。

また、長時間の使用により学習時間及び睡眠時間が減少し学力の低下や生活習慣の乱れなどにつながることも心配されています。

実際、アンケート結果から、スマホ所持率は、学年が上がるにつれ増加し、特に小学校高学年からネットの接続時間も大きく増加します。

スマホ等やゲームなどのインターネットを接続する機器を使う際は、「スクリーンタイム」等を使って設けることや、有害サイトは閲覧できないよう「フィルタリング設定」を行う等のルール作りをして適切に使用することが大切です。

しかし、保護者とのルールを決めている子どもは学年が上がるにつれて減少する傾向があります。

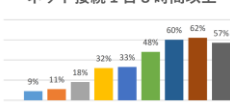
情報モラル教育は、家庭での取組みが大切です。子どもに要求されるまま、むやみに買い与えるのではなく、使用目的や危険性、ルールやマナーについて各家庭において話し合い、保護者として心配していることや気をつけてほしいことをしっかりと伝えてください。

現在の「スマホ等」は、電話や連絡を取る機能のみならず「インターネット端末」でもあることをふまえ、子どもに持たせる必要性をよく考えていただきますようお願いいたします。

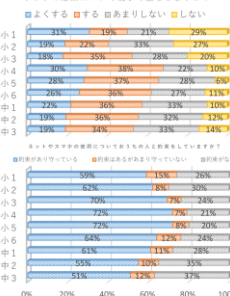
スマホ所持率



ネット接続1日3時間以上



ネットの危険について親子で話しますか？



令和 8 年 4 月
高石市教育委員会

花山さんの学級では、夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたことを書き、友達と報告し合うことになりました。花山さんは、「暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう」について調べ、文章を書いていました。次の「花山さんの文章の一部」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【花山さんの文章の一部】

暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう

- はじめに
夏休みに外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。暑いときは、そでがアミじかい方がすずしいのではないかな。なぜ、長そでの服を着ているのか、ふしぎに思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。
- どうして暑い日に長そでの服を着るのか
「生活と太陽」という本には、「日差しが強いときにはだを出して日焼けをすると、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする。」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服でおおっている人たちがいる。皮ふに直して日光を当てない方がすずしいのである。」と書かれている。①強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだな。
では、すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのだろうか。
- すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのか
「熱中しょうかん境保健マニュアル2022」には、暑さをさける衣服のくふうとして、「ゆったりした衣服にする。」「えり元をゆるめて通気する。」と書かれている。また、「夏のくらし方」という本には、「服とはだの間に風が通るようにえり元やすそをゆったりさせると、すずしくなります。」と書かれている。〈図〉のように衣服の形や着方を意識してくふうすることで、長そでの服でもすずしく快適に過ごすことができそうだな。
では、衣服の形や着方以外に、快適に過ごすくふうはあるのだろうか。



花山さんは、「集めた情報」をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを「花山さんの文章の続き」に書いています。あなたが花山さんなら、に入る内容を、どのように書きましか。あとの条件に合わせて書きましか。

【花山さんの文章の続き】

- すずしく過ごせる衣服の色は何色か
「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そででもすずしく過ごすことができそうだな。
また、
- 終わりに
これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

(参考文けん)

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しやすいため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

- ○ ○ ○ ○
 (条件)
 【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。
 ○ ○ ○ ○ ○
 ぬき出した本の題名と本文の一部の内容はかきかこ()でくくること。
 ○ ○ ○ ○ ○
 ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。
 ○ ○ ○ ○ ○
 百四十文字以内にまとめて書くこと。

林さんの学級では、自分の心に残った文章について考えたことをまとめることにしました。林さんは、「苦手」と「嫌い」という題名の文章を選んで読んでいます。次は、林さんが読んだ「文章」です。これよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章】※ 部①、②、③、アの内容は、あとの問いで取り上げられます。

(辻村深月「苦手」と「嫌い」による。)

※「シチュエーション」……じようきよう。立場。場面。

(辻村深月「苦手」と「嫌い」による。)

三 林さんは、「文章」を読んで、自分の考えをまとめるために、同じ文章を読んだ小川さんと話し合うことにしました。次の「話し合いの様子の一部」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

林さん
私(わたし)は「苦手」と「嫌い」という題名の文章が心に残ったんだ。この文章の中の()——部アを示しながら、この部分が特に考えさせられたんだ。

小川さん
どんなことを考えたの。

林さん
この部分のあとにいろいろな事例が出てくるでしょ。これらの事例を読んだら、自分にも同じようなことがあると、はっとしたんだ。例えば、自分に置きかえると、

小川さん
なるほど。文章と自分の経験を結び付けて考えたんだね。

林さん
そうなんだ。この文章を読んで、これまでの自分にはない考えだったけれど、なるほどと思ったよ。小川さんは、どんなことを考えたの。

小川さん
ぼくは、この文章を読んで、筆者が書いていることと少しちがうことを考えたんだ。「苦手だからどうしても嫌い」ということもあるだろうし、「得意だけれど嫌い」ということもあるんじゃないかなと思うんだけど、どう思う。

(話し合いが続く)

(2) 林さんは、小川さんと話し合ったことをもとに、改めて「文章」を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめることにしました。あなたなら、「文章」を読んで考えたことをどのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましか。

- ○ ○ ○ ○
 (条件)
 【文章】を読んで、考えたことを書くこと。
 ○ ○ ○ ○ ○
 【文章】から言葉や文を取り上げて書くこと。
 ○ ○ ○ ○ ○
 あなたの経験を書くこと。

解説 領域「書くこと」に関する問題

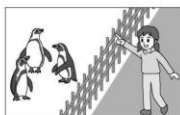
- 2 - 四 引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかが問われる問題です。引用する目的を明確にすることや、その上で原文に正確に引用すること、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にし、区別して書くことに課題があります。

領域「読むこと」に関する問題

- 3 - 三(2)文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかが問われる問題です。既有的の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成すること、【文章】を読んで考えたことを、【文章】から言葉を取り上げ、自分の経験と結びつけてまとめることに課題があります。

(3) AとBの2つのペンギンの広場があります。

下の表は、広場にいるペンギンの数と広場の面積を表しています。



広場にいるペンギンの数と広場の面積

	ペンギンの数 (羽)	面積 (m ²)
A	10	20
B	12	30

ことねさんは、どちらの広場の方がこんでいるのかを調べるために、下の計算をしました。

【ことねさんの計算】

A $10 \div 20 = 0.5$

B $12 \div 30 = 0.4$

【ことねさんの計算】をもとに、どちらの広場の方がこんでいるのかについて、下のようにまとめます。

下の ア と イ、 ウ と エの中から、正しいものをそれぞれ選んで、その記号を書きましょう。

【ことねさんの計算】は

ア 1 m²あたりのペンギンの数

イ 1羽あたりの面積

を求めています。

商を比べると

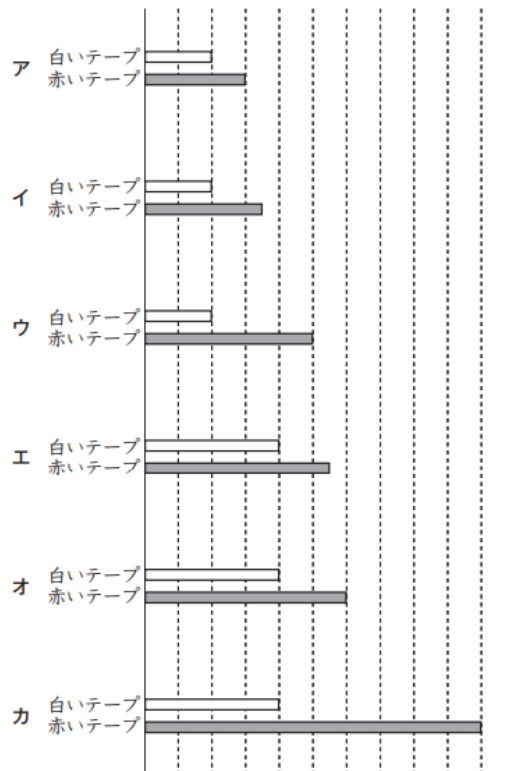
ウ 商が大きいAの広場

エ 商が小さいBの広場

の方がこんでいることがわかります。

(4) 赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図はどれですか。

下の ア から カ までのの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。



解説 領域「変化と割合」に関する問題

② -(3) 単位量あたりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方がこんでいるのかについて判断できるかが問われる問題です。単位量あたりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、示された式が「1 m²あたりのペンギンの数」を求めているのか、「ペンギン1羽あたりの面積」を求めているのかを判断することに課題があります。

② -(4) 基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかが問われる問題です。示された基準量と割合から、比較量を捉えることに課題があります。

② 合唱「アンケールの委員である山下さん、石川さん、大森さんは、学校の目標を達成するための課題についてアンケートをとり、その解決のために、出された意見をタブレット端末上で共有しながら話し合っています。次の「アンケートの結果を示した画面」(話し合いの一部)、「話し合いを受けて整理した画面」を読んで、あとの問いに答えなさい。

「アンケートの結果を示した画面」

「話し合いの一部」



【目標を達成するための課題】
・歌声に強弱がつけられない。
・高い音の部分がうまく歌えない。
・歌い出しのタイミングがそろわない。
・練習を始めるまでに時間がかかる。
・練習後の振り返りのときに、意見や感想が出されない。

【音楽科の先生に相談すること】
・歌声に強弱をつけた。
・高い音の部分がうまく歌えた。
・自分たちで取り組むこと。
・指揮者を見て、歌い出しのタイミングをそろえた。
・集まった後すぐに練習を始める。
・練習後の振り返りのときに、意見や感想を積極的に出そう。

山下 私たちの学校の目標は「美しい歌声を響かせよう」です。アンケートで目標を達成するための課題として挙げられたものを、タブレット端末で共有したので、画面を見てください。まずはみんながどんなことを課題として考えているかを整理した上で、どうしていけばよいかを考えますね。

石川 そうですね。目標を達成するための課題を見ると、歌の表現の仕方に関わるものと、練習への取り組み方に関わるもの(二つに分けられるのではないのでしょうか)。

山下 例えば、「歌声に強弱がつけられない」「高い音の部分がうまく歌えない」は、歌の表現の仕方になりますよね。

石川 「歌い出しのタイミングがそろわない」もそれに入ると思います。

大森 そうすると、それ以外の「練習を始めるまでに時間がかかる」「練習後の振り返りのときに、意見や感想が出されない」は、練習への取り組み方に関わるものになりますね。

山下 まずは、「目標を達成するための課題」を二つに分けられましたね。

大森 では、このあとどうしていけばよいかを考えましょう。私は、歌の表現の仕方に関わるものは、音楽科の先生に相談するのがよいと思います。私もそう思います。ただ、「歌い出しのタイミングがそろわない」については、指揮者を見てタイミングをそろえたり、自分たちで取り組むことができそうな気がします。

山下 そうですね。では、まずは自分たちで取り組んでみましょう。

大森 賛成です。

石川 いろいろな意見が出たので、今までは話し合ってきたことをまとめて、「音楽科の先生に相談すること」と「自分たちで取り組むこと」に整理してみました。どうでしょうか。

石川 先生や音楽科のみんなに伝える言い方になっていてよいと思います。

山下 その内容では、この「自分たちで取り組むこと」は、学校のみんなにどのように伝えるとよいでしょうか。

大森 この画面をオンライン上の学校のページに載せるのがよいと思います。タブレット端末を見て、取り組むことを一つずつでもまとめて確認することができるので、練習するときに気を付けることができると思います。

石川 私は、練習ごとに一つずつ取り組むことを呼びかけていくのがよいと思います。一つ一つしっかりと意識しながら練習できると思うからです。

山下 二つの意見が出ましたね。では、話し合いをまとめていきましょう。

石川 「美しい歌声を響かせよう」という目標に向けて練習するために、学校のみんなにどのように伝えたいでしょうか。

四 【話し合いの一部】で山下さんは「美しい歌声を響かせよう」という目標に向けて練習するために、学校のみんなにどのように伝えたいでしょうか」と投げかけて、練習するために、学校のみんなにどのように伝えたいでしょうか」と投げかけて、あんなならのよき意見を述べています。この「話し合い」を参考に、あとの問いに答えなさい。

条件1 学校のみんなにどのように伝えたいかについて、自分の考えと理由を書くこと。

条件2 条件1について、大森さんと石川さんの意見の両方を取り上げながら書くこと。

④ 林さんは、擬音語・擬態語・擬声語に興味をもつ、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。①から⑦は、段落の番号を表します。

(中田智子「会話の表情を表わす擬音語・擬態語」による。)

(注) 物語・人話するときの態度。

(中田智子「会話の表情を表わす擬音語・擬態語」による。)

四 林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、「(具体的な場面)」を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、例文1と例文2を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【具体的な場面】

【例文1】擬態語を使っていない例文

「いいえ。たくさん練習してきましたから大丈夫です。」
生徒は言った。

【例文2】擬態語を使った例文

「いいえ。たくさん練習してきましたから大丈夫です。」
生徒はささばりと言った。



条件1 【例文2】の擬態語「ささばり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。

条件2 条件1で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

解説 領域「話すこと・聞くこと」に関する問題

② - 四 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかが問われる問題です。一方的に自分の考えを主張するのではなく、互いの考えを捉え、共通点や相違点を踏まえながら話し合いが進展するように、自分の考えを整理して伝えることに課題があります。

領域「読むこと」に関する問題

④ - 四 文章を読んで、自分の考えを確かなものにすることができると問われる問題です。「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを基に、具体的な場面と結びつけながら、自分が文章をどのように捉え、解釈したのかを振り返ることに課題があります。

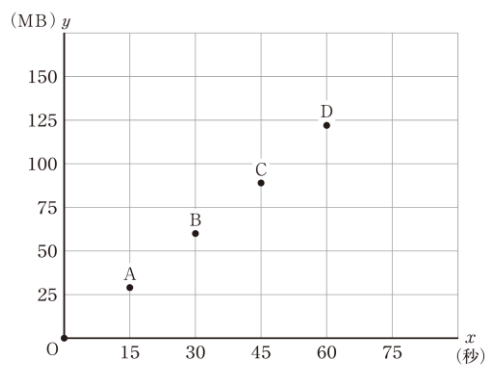
- 7 光希さんのクラスでは、クラス紹介の動画を撮影することになりました。撮影する動画のデータ量は1000 MBまでにすることになっています。

そこで、動画の時間によってデータ量がどのように変わるかを調べるために、同じ撮り方で時間だけを変えて動画を撮影し、動画の時間とそのデータ量を記録しました。そして、動画の時間が x 秒のときのデータ量を y MBとして、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。



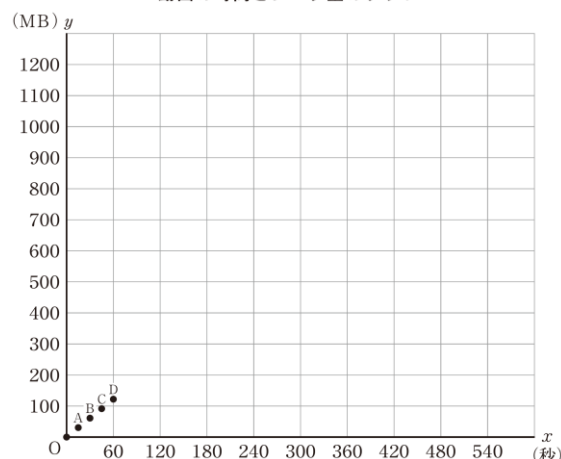
調べた結果

x (秒)	0	15	30	45	60
y (MB)	0	29	60	89	122



- (2) 光希さんは、1000 MBのデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、前ページの調べた結果を下にグラフに表しました。

動画の時間とデータ量のグラフ



動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が一直線上にあると考えます。

このとき、データ量が1000 MBになるときの動画の時間はおおよそ何秒になるかを求める方法を、 x 座標や y 座標、 x の値や y の値など、 x や y を使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

- 9 保健委員の桃音さんと悠真さんは、自分たちの学校の生徒の睡眠時間の特徴について、保健だよりで報告することになりました。そこで、全校生徒300人を対象に、ある日の起床時刻と就寝時刻を調査し、睡眠時間を調べました。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) 二人は、全校生徒の睡眠時間の分布の傾向を調べようと考え、次の表にまとめました。

全校生徒の睡眠時間の度数分布表

階級(時間)	度数(人)	累積度数(人)
以上 未満		
4 ～ 5	1	<input type="text"/>
5 ～ 6	14	<input type="text"/>
6 ～ 7	75	<input type="text" value="ア"/>
7 ～ 8	126	<input type="text"/>
8 ～ 9	62	<input type="text"/>
9 ～ 10	20	<input type="text"/>
10 ～ 11	2	<input type="text"/>
合計	300	

全校生徒の睡眠時間の度数分布表の には最小の階級から6時間以上7時間未満の階級までの累積度数が入ります。 に当てはまる値を求めなさい。

解説 領域「関数」に関する問題

- 7 -(2) 数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうか問われる問題です。直線のグラフ、比例又は一次関数の式、表や数値から求めた割合などを根拠として明示し、求めたことを説明することに課題があります。

領域「データの活用」に関する問題

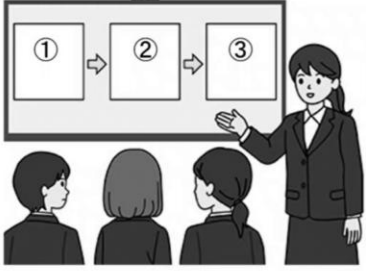
- 9 -(1) 累積度数の意味を正しく理解しているかどうか問われる問題です。相対度数や階級の度数、累積相対度数などと混同しないようにする等、数学的用語を正しく理解することに課題があります。

<問題文>

しおりが、先週、いちご農園で体験したことについて英語で発表します。しおりの発表を聞いたあと、ア、イ、ウの3枚の絵が示されます。しおりが体験した順に、①②③の中に入る絵を、1つずつ選びなさい。必要に応じてメモを取ってもかまいません。

再生ボタンを押してください

【しおりの発表】※①、②、③の絵は、聞いたあとに示されます。



<解答欄> ① 選択肢から選ぶ ② 選択肢から選ぶ ③ 選択肢から選ぶ

4 話を聞き、概要を捉える

しおりが、先週、いちご農園で体験したことについて英語で発表します。しおりの発表を聞いたあと、ア、イ、ウの3枚の絵が示されます。しおりが体験した順に、①②③の中に入る絵を、1つずつ選びなさい。必要に応じてメモを取ってもかまいません。

I had work experience at a strawberry farm last week. In the morning, I made strawberry jam. I put strawberries and sugar into a pot, and cooked them. After lunch, I picked strawberries. I checked their sizes and colors. I put them into the box. Finally, I cleaned around the farm. I saw old strawberry leaves on the ground, so I collected them. The work was hard, but I had a great experience.

13

あなたは、留学生のトム(Tom)と仲良くなるために、交流会で一緒にしたいことをクラスに提案することになりました。「トムと一緒にしたいことを1つ取り上げ」、「なぜそれをしたいのか」を、15語以上30語以内の英語で書きなさい。なお、交流会でしたいことは下の【例】を参考にしてもかまいません。

What do you want to do with Tom?

【例】



<解答欄> ※半角で入力してください

0 / 最大999 単語

解説 領域「聞くこと」に関する問題

4 日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかが問われる問題です。一つの話題に沿って話されるなど、内容に一貫性のある英語の音声を聞き、一語一語や一文一文の意味に捉われず、話の全体的な内容を捉えることに課題があります。

領域「書くこと」に関する問題

13 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかが問われる問題です。文章構成の特徴を意識し、全体として一貫性のある文章を書くとともに、出来事や事実を描写したり、考えや感想を述べたりする際、読む人によりよく伝わるよう、表現を工夫することに課題があります。